

2025年3月

(公財) 日本城郭協会 2025年度事業計画

当協会の目標は城郭文化の振興と城郭文化の次世代への継承である。2024年度までの活動で『城』への認知度は格段に向上し、『城』に対して興味を抱き実際に訪れる愛好家を増やすことができたと考える。2025年度は調査・研究分野の進捗を継続するとともに、教育事業・啓発事業にも引き続き取り組むことで、城郭文化の定着と発展に寄与する。また、協会の財務・人事基盤の確立を推進し、持続可能な活動体制の構築を目指す。

1.協会の基盤確立の推進—会員増強への取り組み強化・推進—

協会の基盤確立のための最重要活動として、会員増強を対2024年度比会員数の10%増員を目標に推進する。併せて既存会員の満足度向上のために、一般会員との交流を目的とした会員交流会等の企画・開催を積極的に行う他、法人会員・城郭会員向けの情報提供や各種催事などの開催を通じて各城郭との連携強化につとめる。

会費収入を核として、監修等による収入を確保する事で、協会運営資金の安定確保を行う。また、事業の多角化に伴い、会員からの人材登用によって、事務局の活性化を図る。

2.「日本城郭協会大賞」の主催

城郭文化の振興を目的に『日本城郭協会大賞』を継続して主催する。本事業の認知向上のためのPRを活性化させる。受賞者の「お城 EXPO」における記念講演・セミナー等については、調査・研究活動としての開催と同時に本賞の認知度向上の一環としても継続する。

3.調査・研究活動

当協会の調査・研究事業の柱として2024年度に刊行した『日本城郭協会研究紀要』の継続刊行を行う。また、学術委員会については本紀要への投稿や会報への寄稿、「お城 EXPO」などの講演、「日本城郭協会大賞」の審査員などへの参加を通じて活性化を図る。

4.「日本100名城スタンプラリー」・「続日本100名城スタンプラリー」の運営・PR強化

「日本100名城スタンプラリー」・「続日本100名城スタンプラリー」については、

2025 年度も引き続き各城郭と緊密に連携しながら推進する。

法人会員等とのコラボレーションなどを通じて「日本 100 名城・続日本 100 名城スタンプラリー」の PR を実施することで、スタンプラリー参加者のさらなる増加を図る。

5. 「城の自由研究コンテスト」「親子名城見学会」の継続開催

次世代に向けた教育事業である「城の自由研究コンテスト」と「親子名城見学会」を継続実施する。「城の自由研究コンテスト」については社会的認知度のさらなる向上を図るために「お城 EXPO」における作品展示と表彰式を継続する。

「親子名城見学会」は、全国的な展開を図ることでより広範囲な参加者を確保し、各地の城郭との連携強化及び全国的な会員増加に寄与する事業とする。

6. 「お城 EXPO2025」の開催

城郭文化の認知度向上を目的とする「お城 EXPO」は、日本最大級の城イベントとして注目度も高く、第 10 回となる 2025 年度は記念大会としてさらなる規模の拡大、内容の充実を図る。引き続き当協会の各事業との連動も行き、共同主催者として主導的立場で参加する。

また、各地で開催される「出張!お城 EXPO」にも積極的に参画し、城郭文化の全国的な伝播と各地の城郭愛好家へ当協会の PR と入会促進を行う。

7. 「日本城郭検定」の開催

日本城郭検定は、オンライン検定を活用しながら引き続き開催する。業務の効率化も見据えながら、事業の継続性を高める。

8. 広報活動強化

当協会の公益事業活動を広く社会に周知させるとともに、会員への情報サービス機能や新会員加入促進を目的に、会報「城郭ニュース」の発行・配布を継続する。

リニューアルされたホームページを通じて、デジタル化を進め、当協会の情報発信・コミュニケーションの即応性を高める。SNS については、会員・その他の城郭愛好家向けに、城郭会員を中心とした各城郭から提供された情報などを適時掲載・リツイートを行う。協会公認サイト「城びと」との連携や、城郭会員や各自治体とのコミュニケーションを拡大する。

また、ニュースリリース配信サービスの活用により、当協会事業のより広範囲な周知と協会の認知向上を積極的に行う。

9. 出版活動

当協会の認知度向上・城郭文化振興のために各種出版・制作物の企画を推進する。好評を博している「城カード」については、続日本 100 名城にも対象を拡大し、企画監修・発行を推進する。

10. 世界の城郭・城址の調査・研究への取り組み

2011 年に選定した「ヨーロッパ 100 名城」については、協会ホームページ上における運用を継続する。また、各国大使館等の協力を得て「お城 EXPO」における展示を活

用しながら、記載内容・画像の更新を順次行う。

また、日本・ヨーロッパ以外の城について、調査の検討を行う。

11. 「当協会資産」の収集・整理・活用

当協会として活用できる城郭写真の収集・整理を継続し、ライブラリー化の検討を行う。また、『お城 EXPO』で展開する『城のフォトコンテスト』の応募作品のライブラリーへの組み入れも引き続き行う。

当協会の資産である井上宗和氏の研究資料等の整理についても継続する。早期のリスト化について目途をつけた上で活用についての検討を開始する。

年度計画補足説明

1. 協会の基盤確立の推進—会員増強への取り組み強化・推進—

2024年度の新規一般会入会者は130名を超える見込みとなり、退会者との差し引きで2024年度中に総計1,050名程度となる見込みです。また、法人会員も2024年度に5社入会し、現在23社となっています。城郭会員は2024年度8団体入会し、46団体となっています。対2023年度比で8.6%の増員となりました。

4. 「日本100名城スタンプラリー」・「続日本100名城スタンプラリー」の運営・PR強化

2024年度に「日本100名城スタンプラリー」の達成者は単年度で1,100人程度、延べ7,200人超となる見込みです。「続日本100名城スタンプラリー」の達成者は単年度で600人程度、延べ2,300人程度となる見込みです。

5. 「城の自由研究コンテスト」「親子名城見学会」の継続開催

2024年度の「城の自由研究コンテスト」は応募総数175件。教育新聞・西日本新聞をはじめ多数のネットニュースで取り上げられました。

「親子名城見学会」は、佐倉城・浜松城・彦根城・広島城で開催し、合計82名の参加となりました。解説に各城の学芸員や当協会の学術委員をお願いし、好評を博しています。

6. 「お城 EXPO2024」の開催

「お城 EXPO2024」は、2日間合計20,754名の来場者と過去最高の111団体/社の出展となりました。

「出張!お城 EXPO」は10月に丸岡城、米原市で開催し、当協会役員・学術委員の皆様に登壇いただきました。

7. 「日本城郭検定」の開催

6月と11月に東京・名古屋・大阪・姫路(6月)・彦根(11月)・オンラインで開催し、受験者数は約2,900名でした。

8. 広報活動強化

ホームページのリニューアルを実施しました。リニューアル後入会動機としてホームページを見たという入会者が増えるなど、効果が認められます。

ニュースリリースについては「日本城郭協会大賞」「城の自由研究コンテスト」「日本城郭協会研究紀要」の3件を配信しました。

9. 出版活動

「城カード」は、日本100名城に続いて続日本100名城にも対象を拡大し、87城95種の発行を行いました。